

夏に流行する疾患

～プール熱の予防対策等について～



眼科 部長 緒方 実紀



夏風邪の代表的なものとして「プール熱」という病気があります。プールに入った子供が集団感染したことからその名で呼ばれるようになったのですが、実際はプール以外の様々な場所で感染を起します。正しくは「咽頭結膜熱」と言い、咽頭炎、結膜炎、発熱が主な症状です。

原因はアデノウイルスによる感染です。アデノウイルスは 50 種類以上の型があり、それぞれの型によって生じる症状も異なります。プール熱の場合は 3 型、7 型が多いとされています。同じアデノウイルスで起こる結膜炎として流行性角結膜炎（はやり目）がありますが、これは 8 型が主体となります。「プール熱」の結膜炎症状（充血や眼脂など）は流行

性角結膜炎より弱い反面、のどの痛みや 39 度前後の発熱など、呼吸器症状を伴うのが特徴です。

通常は予後良好の疾患であり、治療の基本は解熱薬、水分補給などの対症療法となります。結膜炎に対しても特効薬はなく、感染したウイルスに対する抗体が体内で作られるのを待つしかありません。通常は炎症を抑え、細菌による二次感染を防止するための目薬を使用します。

アデノウイルスは感染力が非常に強いので、集団生活で問題が生じます。感染経路は飛沫感染、または手指を介した接触感染です。糞便にはウイルスが長期間排泄されます。結膜炎の患者さんの眼脂や涙液には多くのウイルスが存在しますので、目をこすった手で不用意に

触ってしまったドアノブや手すりなども感染源となりえます。

感染を予防する一番の方法は、とにかく流水、石鹸でよく手を洗うことです。目を拭くときはティッシュペーパーなどの使い捨てのものを使い、タオルなどは家族と別のものを使いましょう。消毒は 80%以上のエタノール、ポピオンヨード、器具に対しては煮沸や次亜塩素酸ナトリウムの消毒が有効と言われます。日本のプールについては通常適正な塩素濃度の衛生管理が行われています。

感染の恐れがある期間は約 1～2 週間です。学校保健法では第二種伝染病として、主要症状がなくなった後 2 日を経過するまで登校禁止になっています。社会人でも集団感染防止のため、仕事を休むのが望ましいでしょう。

病児保育「アイビー」 開所2年目を迎えて



保育管理課 保育士 矢野 公仁子

当施設は松山市が委託して行っている病児保育事業とは仕組みが異なり、内閣府の企業主導型保育事業に基づき運営を行っていますので、松山市内に居住の方に留まらず、西条市・新居浜市、他県の方の出張時のご利用もあります。

新たな取り組みとして、平成 30 年 9 月より「アイビー通信」の季刊発行を始めました。これは、保育室内の様子や疾患別利用状況・小児科医による疾患情報・管理栄養士や看護師による専門情報など、多岐にわたる記事で構成し、病児保育だからこそ提供できる情報を 3 ヶ月毎に発信しています（アイビー通信は当院ホームページの病児保育「アイビー」内よりご覧になれます）。

病気が病気の後で心身共に弱っているお子

さんをお預かりさせていただきますので、短い期間であっても、職員それぞれが愛情をもって接するようにしています。通常の保育施設のように「またね」と帰りに言えないのが私たちの小さな悩みです。治癒や成長とともに、会えない寂しさはありますが、その反面、元気に登園・登校できていると思うと、嬉しい気持ちになります。

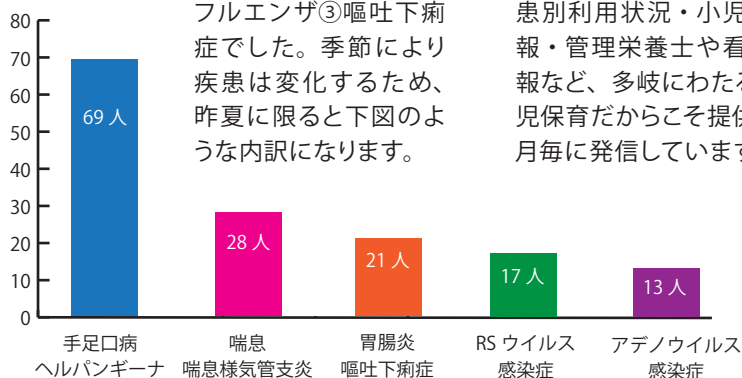
子育てをしながらの就労は大変なこともあり、特にお子さんが病気のときは、周囲に協力して下さるご家族が近くにいる方ばかりではないでしょう。私たちにできることは限られていますが、そんなご家族に寄り添っていける施設でありたいと思っています。

体調が回復し、笑顔で手を振ってくれるお子さんの姿を見送りながら、元気に過ごせることを心から願い、健やかな成長を応援しています。

今後とも病児保育「アイビー」をよろしく願っています。



平成 29 年 11 月に開所した病児保育「アイビー」は、おかげさまで無事 2 年目を迎えました。広報活動や口コミ等で利用者数が増加し、登録者数は令和元年 6 月 1 日現在で 479 人、平成 30 年度の利用者数は延べ 1,242 人でした。疾患の内訳は多い順に①上気道炎②インフルエンザ③嘔吐下痢症でした。季節により疾患は変化するため、昨夏に限ると下図のような内訳になります。



夏の特徴的なお預かり疾患
(H30.6～8月の利用児 338 人中、風邪・その他を除く)